

野外体験保育有効性調査 報告書

2016年（平成28年）3月

三重県

もくじ

第1章 調査の概要について	1
1 目的	1
2 言葉の定義	1
3 調査の内容	1
第2章 調査結果の概要	3
1 保育施設向け実態調査	3
2 野外体験保育に積極的に取り組む施設向け現地調査 (職員等へのヒアリング調査)	20
3 保護者向け意識調査	21
第3章 野外体験保育の普及について	26
1 調査結果から見えること(主なもの)	26
2 野外体験保育の普及方策	27
第4章 野外体験保育有効性調査・検討委員会について	30

第1章 調査の概要について

1 目的

幼児期における自然体験の効果が子どもの育ちに有効であると言われてい
る中、県内の保育所、幼稚園等や保護者に対して野外体験保育に関する実態
調査、現地調査や意向調査等を行い、野外体験保育の有効性の検証を行うと
ともに、県内の野外体験保育の実態をふまえて野外体験保育の普及を図る。

2 言葉の定義

2-1 「野外体験保育」とは

野外を中心に、地域の自然を活用する体験活動を取り入れた保育や幼児教
育

2-2 その他（この報告書で使用する名称）

2-2-1 「保育施設」とは

保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園（以下「認定こども園」）の総称

2-2-2 「保育者」とは

保育士、幼稚園教諭の総称

3 調査の内容

3-1 保育施設向け実態調査

(1) 調査対象

県内の全認可保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）636園
(発送数)

(2) 調査期間

平成27年10月5日～10月28日締切（アンケート調査）

(3) 調査項目

- ①施設の概要
- ②野外体験保育の内容と実施頻度
- ③子どもたちの様子
- ④園外での野外体験ができる自然環境（フィールド）の有無について
- ⑤保育における地域・保護者とのつながり
- ⑥野外体験保育に対するニーズ
- ⑦野外体験保育に対する課題

3-2 野外体験保育に積極的に取り組む施設への現地調査（職員等へのヒアリング調査）

（1）調査対象

- ・【北勢地域】森の風ようちえん（菰野町）
- ・【中勢地域】社会福祉法人鈴の木会 片田保育園（津市）
- ・【伊勢地域】伊勢市立明野幼稚園（伊勢市）

（2）調査日時

平成 27 年 10 月 23 日（金）	11：00～13：00	森の風ようちえん
平成 27 年 12 月 15 日（火）	15：00～17：00	明野幼稚園
平成 27 年 12 月 17 日（木）	13：00～15：00	片田保育園

（3）調査項目

- ①保育・教育のポリシー
- ②施設の概要
- ③野外体験保育の内容と実施頻度
- ④保育における地域・保護者とのつながり
- ⑤野外体験保育に対する課題
- ⑥安全対策について
- ⑦人材育成について

3-3 保護者向け意識調査

（1）調査対象

野外体験保育に積極的に取り組む施設（上記調査実施施設）に子どもを通わせる保護者のうち、5歳児クラス（年長組）の子どもを持つ保護者

（2）調査日時（アンケート調査）

・森の風ようちえん	平成 27 年 12 月 8 日～12 月 19 日	14 通
・明野幼稚園	平成 27 年 12 月 8 日～12 月 15 日	20 通
・片田保育園	平成 27 年 12 月 8 日～12 月 21 日	16 通

（3）調査項目

- ①基本情報
- ②子どもの変化
- ③大人の変化

第2章 調査結果の概要

1 保育施設向け実態調査

1-1 調査票回収結果

546 園（配布数 636 園：回収率 85.8%）

1-2 調査結果

1-2-1 施設の概要

（1）子どもの数

49,556 人 うち 5 歳児（調査対象）13,441 人（全体の 27.1%）

（2）職員数

9,502 名 （一施設あたり 17.4 人）

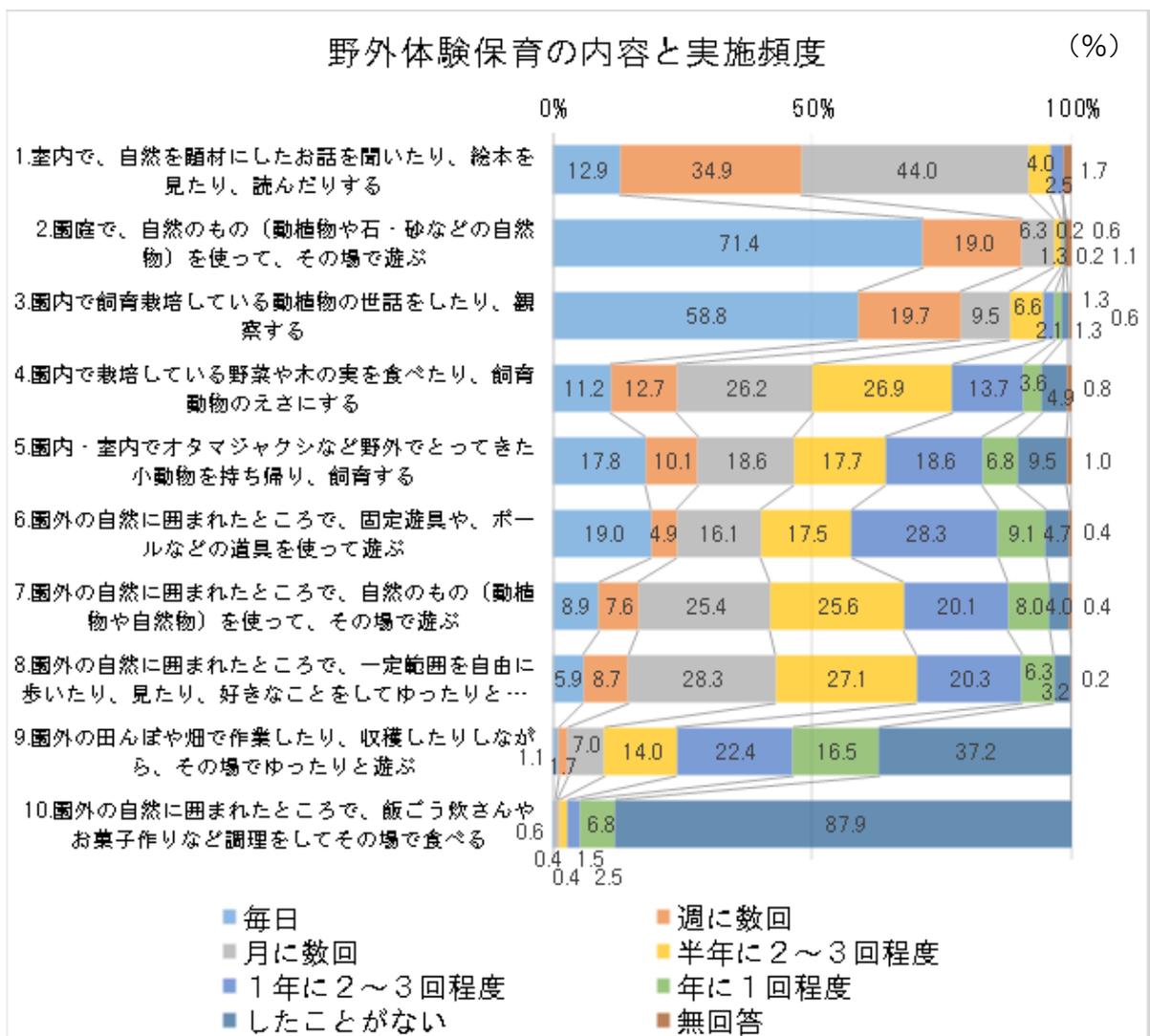
（3）施設の所在

中心市街地（17%）、郊外の住宅地（34%）、農業地帯（34%）、
漁業地域（6%）、山間地域（5%）、その他（4%）

1-2-2 野外体験保育の内容と実施頻度

○園外での自然体験活動を実施している施設は多くない。

自然体験活動の内容を示す項目毎に、月に数回以上の高頻度（《毎日》《週に数回》《月に数回》の合計）で実施していると回答した施設の割合をみると、園内での活動のうち、項目1～3は9割程度以上、項目4・5は約半数程度となっています。園外での活動については、項目6～8は4割程度、項目9は1割程度、項目10は高頻度で実施している施設はほとんどありません。

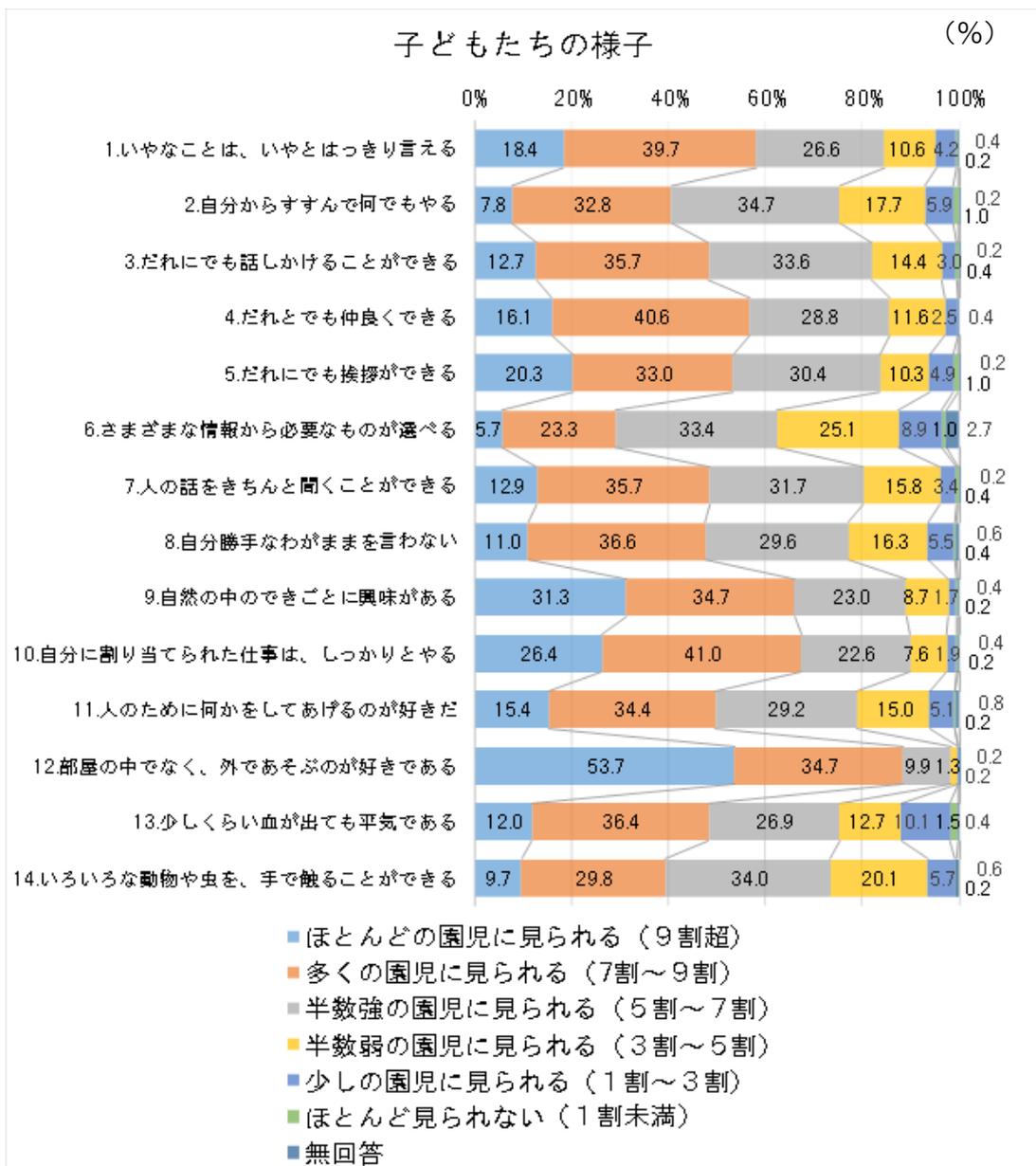


1-2-3 子どもたちの様子

○9割の施設で、多数の園児に「部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである」という様子がみられる一方、「さまざまな情報から必要なものを選べる」という様子が多数の園児に見られる施設は約3割程度となっている。

園児の様子を示す項目毎に、多数の園児にみられる（《多くの園児にみられる》《ほとんどの園児にみられる》の合計）と回答した施設の割合は、「12.部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである」が88.4%と高い一方、「6.さまざまな情報から必要なものを選べる」は全体の29.0%、「2.自分からすすんで何でもやる」及び「14.いろいろな動物や虫を、手で触ることができる」はそれぞれ40.6%、39.5%と低くなっています。

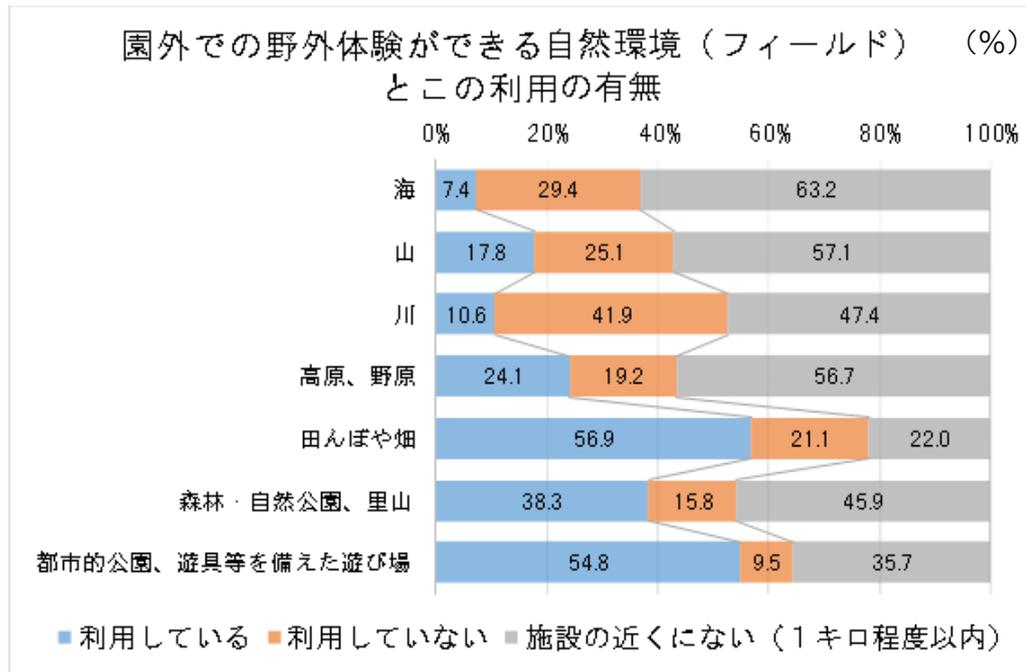
それ以外の項目は、48.4%～67.4%となっています。



1-2-4 園外での野外体験ができる自然環境（フィールドの有無）

○近隣に「田んぼや畑」がある施設は7割強で、利用率も高い。

施設の近隣にある自然環境（フィールド）は、「田んぼや畑」「都市的公園、遊具等を備えた遊び場」がそれぞれ8割強、6割強と多く、利用率も高くなっています。一方、4割から5割程度の施設には、近隣に「海」「山」「川」があると答えていますが、利用率は低くなっています。



1-2-5 保育における保護者・地域との関わり

○施設の行事等に保護者が参加する年間平均回数は7.2回。地域の人々が参加するものは、年間平均22.1回。

施設の行事等に保護者が参加する年間平均回数は「全ての保護者が関わる行事等」が4.9回、「一部の保護者が参加する行事等」は2.3回となっています。

表 保護者が参加する行事等 (回)

施設の種類	施設数	年平均実施回数		
		関全 わて るの 行保 事護 等者 が	関一 わ部 るの 行保 事護 等者 が	合 計
幼稚園	176	5.9	3.2	9.1
保育所	316	4.4	1.7	6.1
認定こども園	8	4.3	0.9	5.1
無回答	27	4.4	3.4	7.8
合計	527	4.9	2.3	7.2

一方、地域の人々が参加する行事等の年間平均回数は、「園の開放による交流」が13.5回と最も多く、次いで「絵本の読み聞かせ、昔の遊びの指導」が6.2回となっています。

表 地域の人々が参加する行事等

施設の種類	施設数	年平均実施回数				合 計
		る園 交の 流開 放に よ	等農 の業 提体 供験 機会	守園 り外 活 動の 見	びか絵 のせ本 指、の 導昔読 のみ 遊聞	
幼稚園	176	10.2	2.1	0.6	4.3	17.2
保育所	316	15.9	1.4	0.9	7.7	25.8
認定こども園	8	3.5	1.5	0.4	4.5	9.9
無回答	27	10.6	1.5	0.4	2.3	14.8
合計	527	13.5	1.6	0.8	6.2	22.1

1-2-6 野外体験保育に対するニーズ

○今後の野外体験保育への取組は「もっと取り組みたい」と「現状の取組でよい」がほぼ同数。

各施設における野外体験保育に対する今後の取組に対する意向は、「もっと取り組みたい」と「現状の取組でよい」と回答した施設がそれぞれ48.0%、44.0%とほぼ同程度で二分しています。一方、「取り組む必要はない」とする施設はほとんどありませんでした。

表 今後の取組に対する意向

施設の種類	施設数	（％）			
		組も みつ たと い取 り	で現 よ状 いの 取 組	要取 はり な組 いむ 必	無 回 答
幼稚園	176	52.3	40.3	0.6	6.8
保育所	316	45.6	46.5	1.0	7.0
認定こども園	8	50.0	50.0	0.0	0.0
無回答	27	48.2	37.0	3.7	11.1
合計	527	48.0	44.0	1.0	7.0

1-3 調査項目の関係について

【野外体験保育の実施頻度の点数化】

1-2-2で見た「野外体験保育の内容と実施頻度の調査」における設問内容（10項目）のうち、園外での自然体験の実施頻度を聞いたもの（設問6～設問10の5項目）について、選択肢の《したことがない》・《年に1回程度》・《1年に2～3回程度》・《半年に2～3回程度》・《月に数回》・《週に数回》・《毎日》の7段階の評価に、1～7の点数を与え、5項目の合計により点数化した。点数が高いほど屋外での自然体験を通じた保育を高い頻度で実施していることとなる。

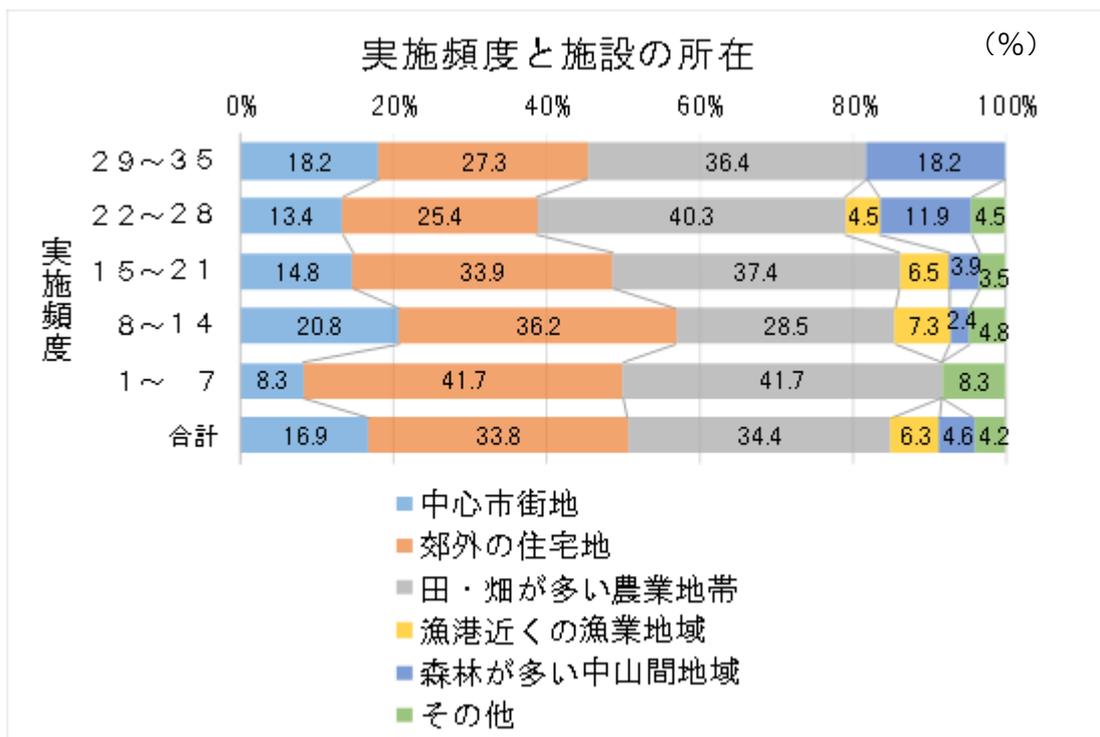
この「1-3 調査項目の関係について」において、「野外体験保育の実施頻度」いう場合には、上記により園外での自然体験活動の状況を点数化した尺度を指すこととする。

1-3-1 「施設の所在地（周辺環境）」と「野外体験保育の実施頻度」の関係

○農村部の保育施設では、野外体験保育の実施頻度が比較的高い。

「施設の所在地（周辺環境）」と「野外体験保育の実施頻度」の関係をみると、実施頻度が高いグループ（実施頻度が15点以上）を見ると、中心市街地及び郊外の住宅地にある施設よりも、農村部（農業地帯、漁業地域、中山間地域）にある施設の割合が高くなっています。

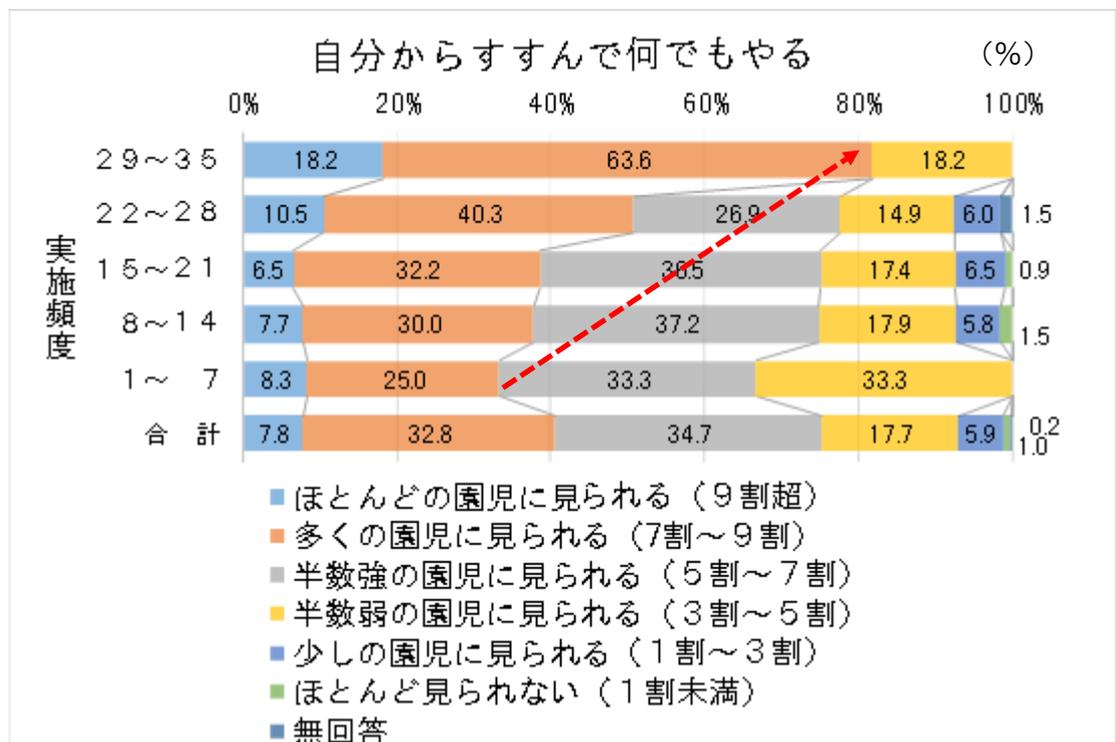
農村部では、施設の近隣に利用可能な「田んぼや畑」「森林・自然公園・里山」などのフィールドの存在が影響していると考えられます。

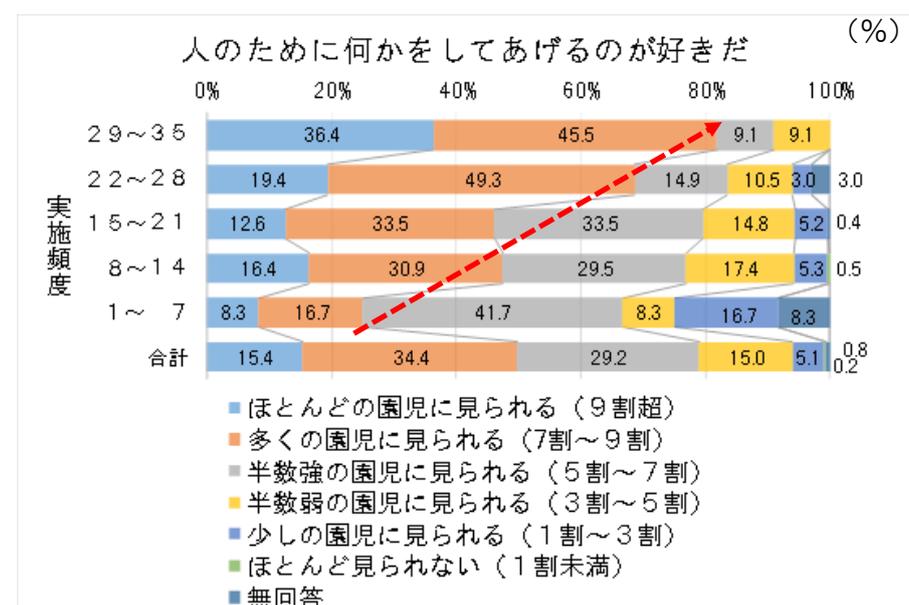
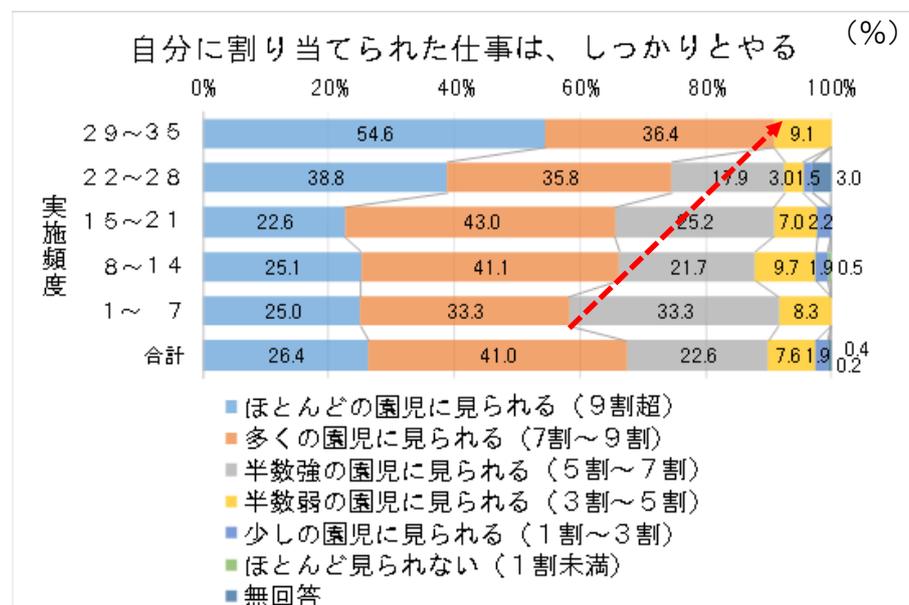
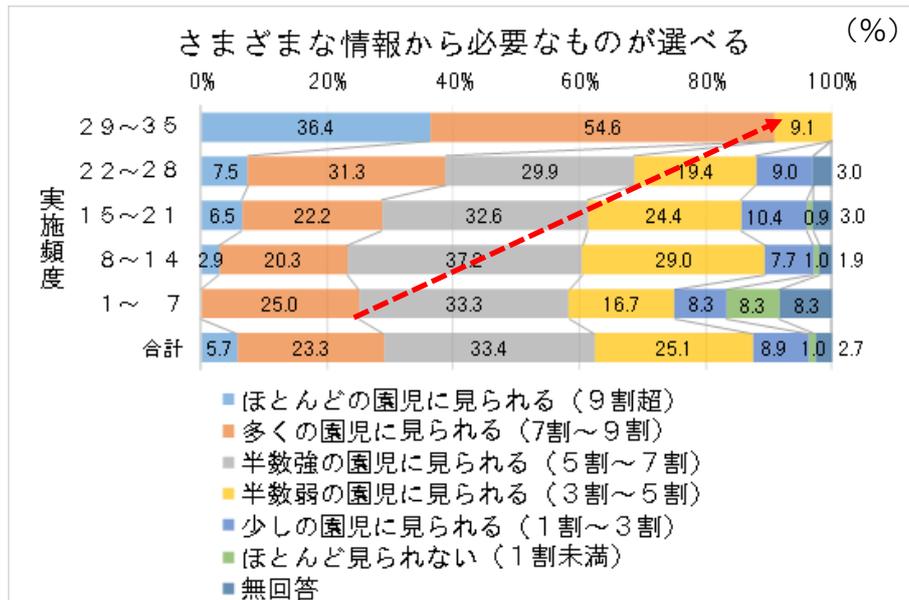


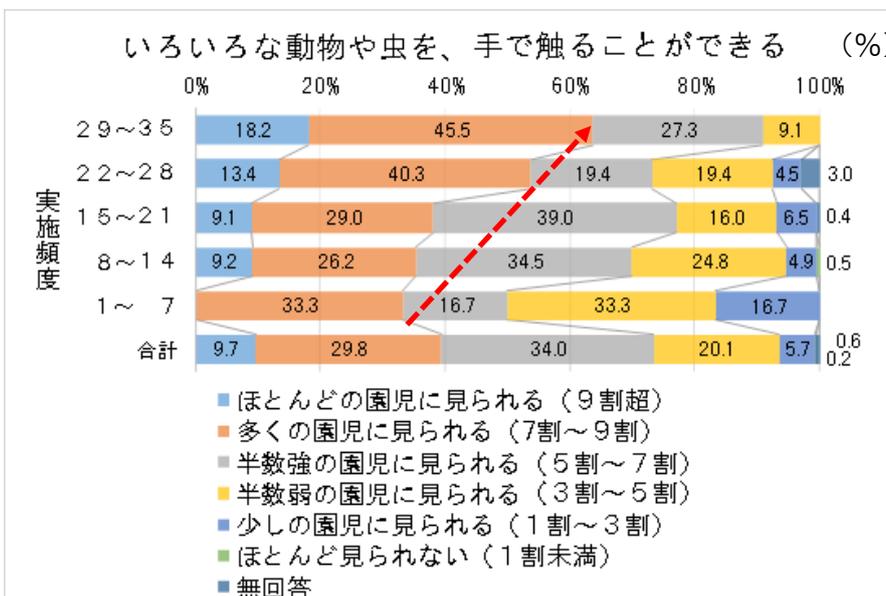
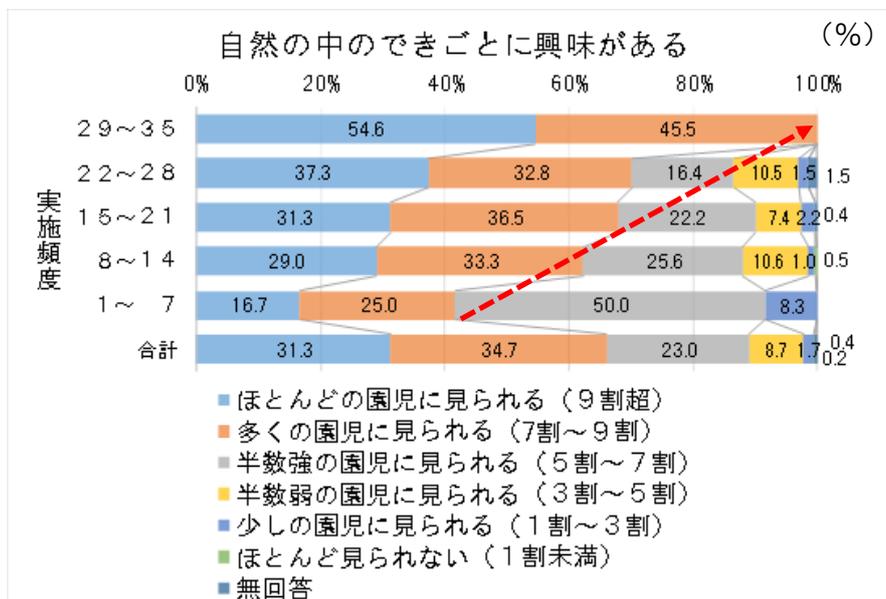
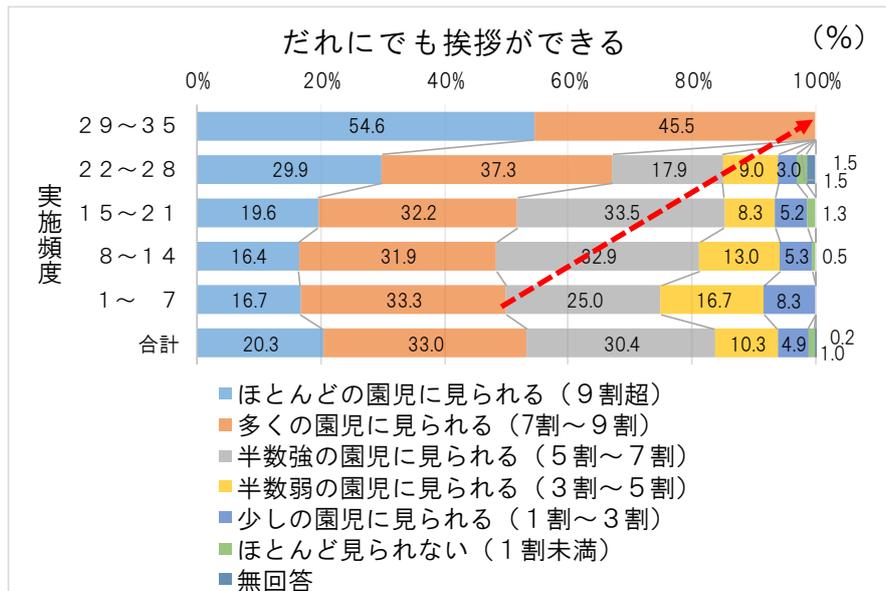
1-3-2 「野外体験保育の実施頻度」と「子どもたちの様子」との関係
 ○野外体験保育の実施頻度が高い施設ほど、多くの園児に「自分からすすんで何でもやる」「さまざまな情報から必要なものが選べる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」などの様子が見られる施設の割合が高い。

「野外体験保育の実施頻度」と「子どもたちの様子」との関係を見ると、「自分からすすんで何でもやる」という項目について《ほとんどの園児に見られる》及び《多くの園児に見られる》と答えた施設の割合は、野外体験保育の実施頻度が低い「1～7」「8～14」のグループに属する施設では、それぞれ 33.3%、37.7%であるのに対し、実施頻度が比較的高い「22～28」「29～35」のグループになると、それぞれ 50.8%、81.8%となり、野外体験保育の実施頻度が高い施設ほど、こうした様子が多くの子に見られる施設の割合が高くなっています。

同様に「さまざまな情報から必要なものが選べる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」「だれにでも挨拶ができる」「自然の中のできごとに興味がある」「いろいろな動物や虫を、手で触ることができる」などの項目についても、こうした関係が見られます。







参考) 野外体験保育の実施頻度と子どもたちの様子(全ての項目の回答結果)

(%)

子どもたちの様子		野外体験 保育 実施頻度	施設 数	(9 割 超)	ほ と ん ど の 園 児	(7 割 超 9 割)	多 く の 園 児 に 見 え る	(5 割 超 7 割)	半 数 強 の 園 児 に 見 え る	(3 割 超 5 割)	半 数 弱 の 園 児 に 見 え る	(1 割 超 3 割)	少 し の 園 児 に 見 え る	(1 割 未 満)	ほ と ん ど 見 ら れ な い	無 回 答
1	いやなことは、 いやとはっきり 言える	29～35	11	36.4	54.6	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		22～28	67	22.4	29.9	32.8	9.0	4.5	0.0	1.5						
		15～21	230	20.9	39.1	26.5	8.7	3.9	0.4	0.4						
		8～14	207	14.5	41.6	25.6	13.5	4.8	0.0	0.0						
		1～7	12	0.0	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0						
		合計	527	18.4	39.7	26.6	10.6	4.2	0.2	0.4						
2	自分からすすん で何でもやる	29～35	11	18.2	63.6	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		22～28	67	10.5	40.3	26.9	14.9	6.0	0.0	1.5						
		15～21	230	6.5	32.2	36.5	17.4	6.5	0.9	0.0						
		8～14	207	7.7	30.0	37.2	17.9	5.8	1.5	0.0						
		1～7	12	8.3	25.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0						
		合計	527	7.8	32.8	34.7	17.7	5.9	1.0	0.2						
3	だれにでも話し かけることができ る	29～35	11	27.3	63.6	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		22～28	67	14.9	34.3	31.3	13.4	4.5	0.0	1.5						
		15～21	230	12.6	33.9	35.7	13.5	3.5	0.9	0.0						
		8～14	207	11.6	35.8	33.8	16.9	1.9	0.0	0.0						
		1～7	12	8.3	50.0	25.0	8.3	8.3	0.0	0.0						
		合計	527	12.7	35.7	33.6	14.4	3.0	0.4	0.2						
4	だれとでも仲良 くできる	29～35	11	27.3	72.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		22～28	67	20.9	38.8	25.4	11.9	1.5	0.0	1.5						
		15～21	230	12.6	39.6	31.3	12.6	3.5	0.0	0.4						
		8～14	207	17.9	41.1	28.0	11.1	1.9	0.0	0.0						
		1～7	12	16.7	33.3	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0						
		合計	527	16.1	40.6	28.8	11.6	2.5	0.0	0.4						
5	だれにでも挨拶 ができる	29～35	11	54.6	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		22～28	67	29.9	37.3	17.9	9.0	3.0	1.5	1.5						
		15～21	230	19.6	32.2	33.5	8.3	5.2	1.3	0.0						
		8～14	207	16.4	31.9	32.9	13.0	5.3	0.5	0.0						
		1～7	12	16.7	33.3	25.0	16.7	8.3	0.0	0.0						
		合計	527	20.3	33.0	30.4	10.3	4.9	1.0	0.2						
6	さまざまな情報 から必要なもの が選べる	29～35	11	36.4	54.6	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		22～28	67	7.5	31.3	29.9	19.4	9.0	0.0	3.0						
		15～21	230	6.5	22.2	32.6	24.4	10.4	0.9	3.0						
		8～14	207	2.9	20.3	37.2	29.0	7.7	1.0	1.9						
		1～7	12	0.0	25.0	33.3	16.7	8.3	8.3	8.3						
		合計	527	5.7	23.3	33.4	25.1	8.9	1.0	2.7						
7	人の話をきちんと 聞くことができ る	29～35	11	27.3	45.5	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		22～28	67	13.4	46.3	22.4	13.4	3.0	0.0	1.5						
		15～21	230	12.2	32.6	36.5	14.4	4.4	0.0	0.0						
		8～14	207	13.5	34.3	29.5	18.8	2.9	1.0	0.0						
		1～7	12	0.0	50.0	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0						
		合計	527	12.9	35.7	31.7	15.8	3.4	0.4	0.2						

(%)

	子どもたちの様子	施設数								
			野外体験 保育 実施頻度	(9 割 超)	ほと んど の園 児 (7 割 9 割)	多 くの 園 児 に 見 (5 割 7 割)	半 数 強 の 園 児 に 見 (3 割 5 割)	半 数 弱 の 園 児 に 見 (1 割 3 割)	少 し の 園 児 に 見 (1 割 未 満)	ほと んど 見 ら れ な い
8	自分勝手なわが ママを言わない	29～35	11	27.3	36.4	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1
		22～28	67	17.9	31.3	26.9	16.4	4.5	1.5	1.5
		15～21	230	8.3	39.1	31.3	16.5	4.4	0.0	0.4
		8～14	207	11.6	34.3	29.0	16.9	7.7	0.5	0.0
		1～7	12	0.0	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0
		合計	527	11.0	36.6	29.6	16.3	5.5	0.4	0.6
9	自然の中ででき ごとに興味があ る	29～35	11	54.6	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	37.3	32.8	16.4	10.5	1.5	0.0	1.5
		15～21	230	31.3	36.5	22.2	7.4	2.2	0.0	0.4
		8～14	207	29.0	33.3	25.6	10.6	1.0	0.5	0.0
		1～7	12	16.7	25.0	50.0	0.0	8.3	0.0	0.0
		合計	527	31.3	34.7	23.0	8.7	1.7	0.2	0.4
10	自分に割り当て られた仕事は、 しっかりとやる	29～35	11	54.6	36.4	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	38.8	35.8	17.9	3.0	1.5	0.0	3.0
		15～21	230	22.6	43.0	25.2	7.0	2.2	0.0	0.0
		8～14	207	25.1	41.1	21.7	9.7	1.9	0.5	0.0
		1～7	12	25.0	33.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0
		合計	527	26.4	41.0	22.6	7.6	1.9	0.2	0.4
11	人のために何か をしてあげるのが 好きだ	29～35	11	36.4	45.5	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	19.4	49.3	14.9	10.5	3.0	0.0	3.0
		15～21	230	12.6	33.5	33.5	14.8	5.2	0.0	0.4
		8～14	207	16.4	30.9	29.5	17.4	5.3	0.5	0.0
		1～7	12	8.3	16.7	41.7	8.3	16.7	0.0	8.3
		合計	527	15.4	34.4	29.2	15.0	5.1	0.2	0.8
12	部屋の中でな く、外であそぶ のが好きである	29～35	11	63.6	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	56.7	28.4	11.9	1.5	0.0	0.0	1.5
		15～21	230	50.9	37.0	10.4	1.3	0.4	0.0	0.0
		8～14	207	56.0	33.3	9.2	1.5	0.0	0.0	0.0
		1～7	12	41.7	50.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
		合計	527	53.7	34.7	9.9	1.3	0.2	0.0	0.2
13	少しくらい血が 出ても平気であ る	29～35	11	27.3	36.4	27.3	0.0	9.1	0.0	0.0
		22～28	68	17.7	35.3	22.1	16.2	5.9	0.0	2.9
		15～21	229	9.6	34.1	32.8	10.9	10.9	1.8	0.0
		8～14	207	12.1	39.1	22.7	14.5	10.1	1.5	0.0
		1～7	12	8.3	41.7	16.7	8.3	16.7	8.3	0.0
		合計	527	12.0	36.4	26.9	12.7	10.1	1.5	0.4
14	いろいろな動物 や虫を、手で触 ることができる	29～35	11	18.2	45.5	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	13.4	40.3	19.4	19.4	4.5	0.0	3.0
		15～21	231	9.1	29.0	39.0	16.0	6.5	0.0	0.4
		8～14	206	9.2	26.2	34.5	24.8	4.9	0.5	0.0
		1～7	12	0.0	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0
		合計	527	9.7	29.8	34.0	20.1	5.7	0.2	0.6

(参考) 子どもの様子の項目について

今回の子どもの様子に関する設問は、橋直隆氏（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授：当時）と平野吉直氏（信州大学教育学部教授：当時）が平成13年に発表した「生きる力」を測定するための70項目の「IKR評価用紙」の調査項目を参考にした。

今回の設問は、「IKR評価用紙」の14の能力をみる設問から、幼児の様子を測る項目を1問ずつ抽出しており、各設問と能力の対応は以下のとおりである。

質問項目	評価	
1. いやなことは、いやとはっきり言える	非依存	心理的社会能力
2. 自分からすすんで何でもやる	積極性	
3. だれにでも話しかけることができる	明朗性	
4. だれとでも仲良くできる	交友・協調	
5. だれにでも挨拶ができる	現実肯定	
6. さまざまな情報から必要なものを選べる	視野・判断	
7. 人の話をきちんと聞くことができる	適応行動	
8. 自分勝手なわがままを言わない	自己規制	徳育的能力
9. 自然の中のできごとに興味がある	自然への関心	
10. 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	まじめ行動	
11. 人のために何かをしてあげるのが好きだ	思いやり	身体的能力
12. 部屋の中でなく、外であそぶのが好きである	日常行動	
13. 少しくらい血が出ても平気である	身体的耐性	
14. いろいろな動物や虫を、手で触ることができる	野外生活・技能	

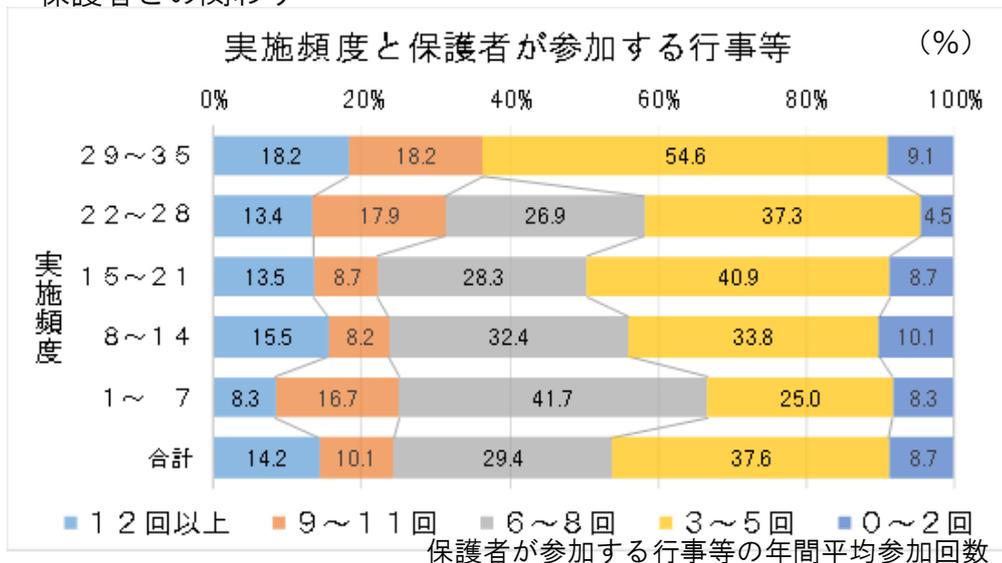
1-3-3 「野外体験保育の実施頻度」と「保護者、地域との関わり」との関係

○野外体験保育の実施頻度が高い施設ほど、地域の人々の保育への参加回数が多い。

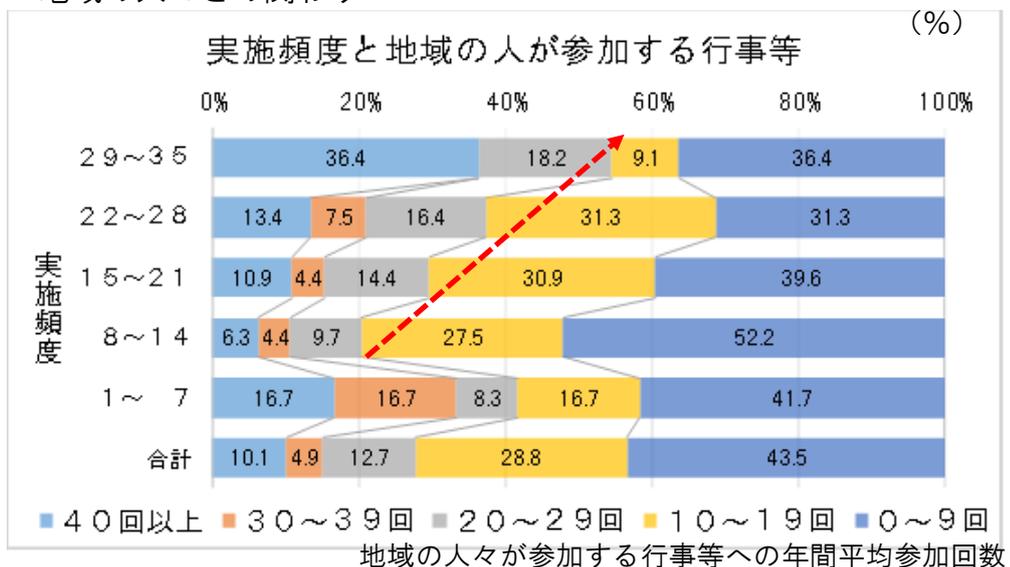
「野外体験保育の実施頻度」と「保護者、地域との関わり」との関係を見ると、保護者との関わりにおいて、保護者が参加する行事等の年間の平均実施回数と、野外体験保育の実施頻度には明確な関係が見られませんでした。

一方、地域の人々が参加する行事等の年間の平均実施回数が20回以上と答えた施設の割合は、野外体験保育の実施頻度が最も低い「1～7」のグループに属する施設を除き、点数が高くなるほど、地域の人々が参加する行事等の回数が多い施設の割合が高くなっています。

保護者との関わり



地域の人々との関わり

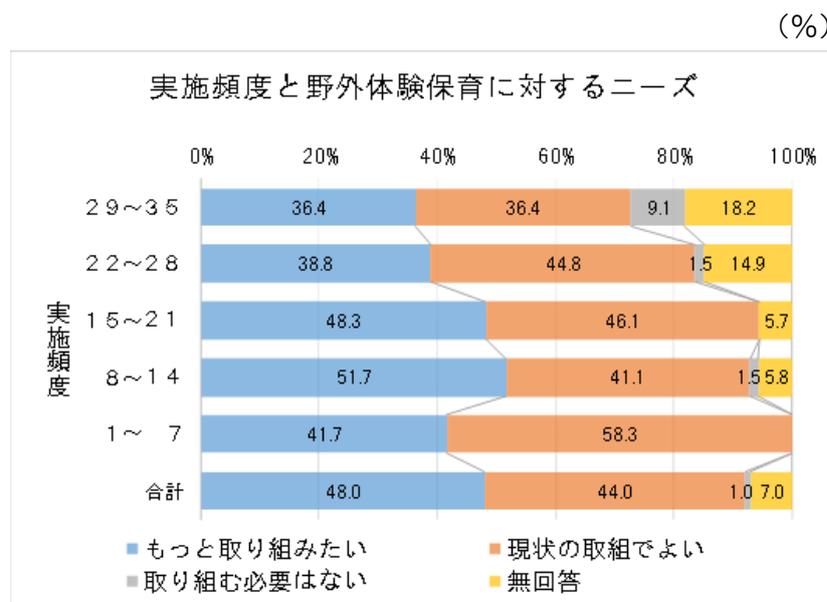


1-3-4 「野外体験保育の実施頻度」と「野外体験保育に対するニーズ」との関係

- 野外体験保育の実施頻度が低い保育施設ほど、もっと野外体験保育に取り組む必要があると感じている。

「野外体験保育の実施頻度」と「野外体験保育に対するニーズ」の関係を見ると、野外体験保育に対する今後の思いに関する質問に対し、《もっと取り組みたい》と答えた施設の割合は、野外体験保育の実施頻度が「8～14」のグループに属する施設では、51.7%となるのに対し、実施頻度が「29～35」、「22～28」のグループに属する施設ではそれぞれ36.4%、38.8%と低くなっており、野外体験保育の実施頻度が低い施設ほど、もっと取り組みたいと答える施設の割合が高くなっています。

ただし、実施頻度が最も低い「1～7」のグループに属する施設では、《現状の取組でよい》と回答する施設の割合が《もっと取り組みたい》と回答する施設より多くなっています。



1-3-5 「施設の所在地」と「野外体験保育に関する課題」の関係

○野外体験保育を進める上での課題は「安全性の確保が困難」が最も高く、次いで、「職員の負担が大きい」、「体験を行うフィールドが少ない」、「職員にスキルがない」と続く。特に中心市街地や郊外の住宅地では、「体験を行うフィールドが少ない」を課題にあげる施設が多い。

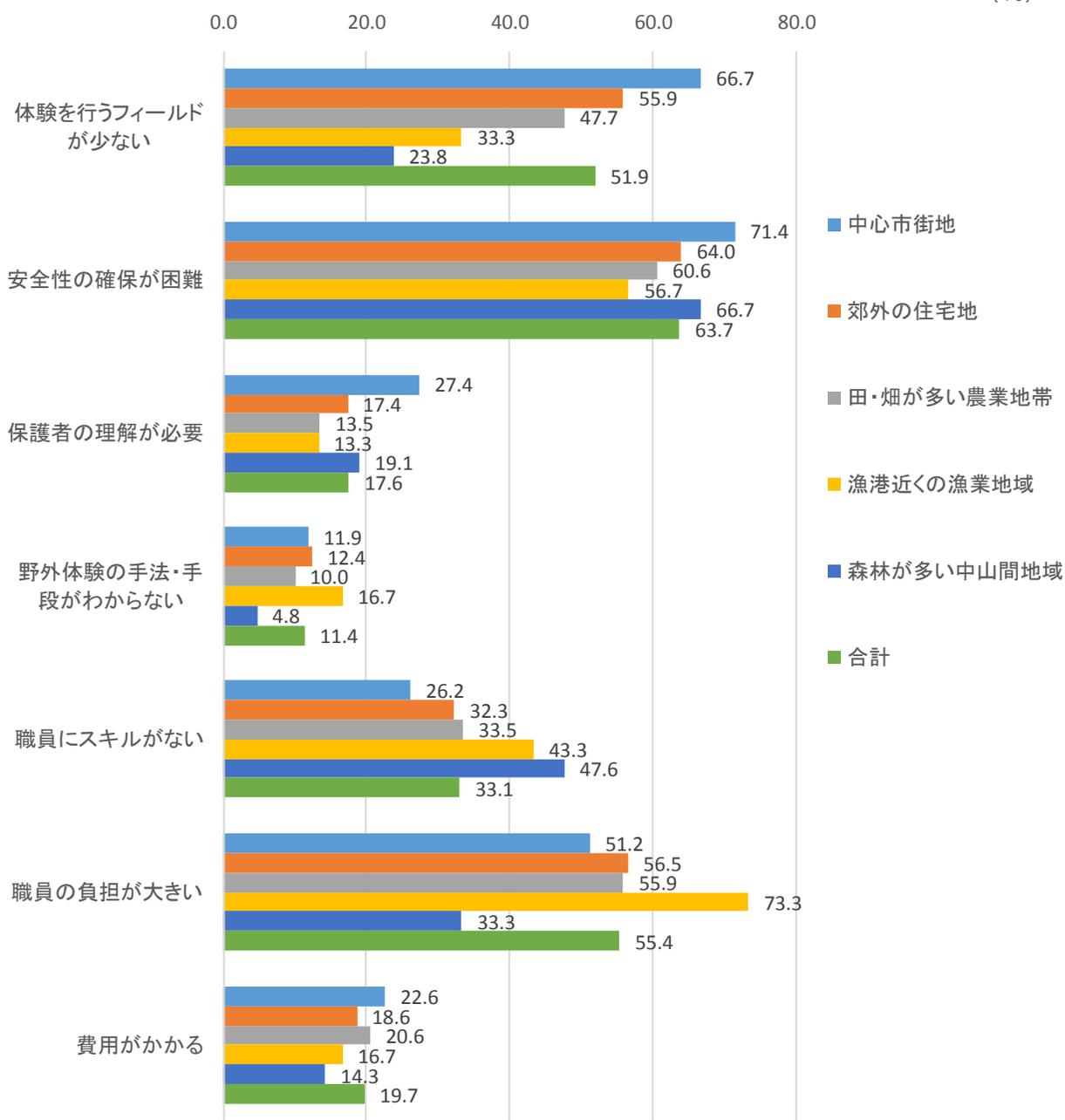
「野外体験保育に関する課題」について、《安全性の確保が困難》との回答が63.7%と最も高くなっています。

次いで、《職員の負担が大きい》との回答が55.4%、《体験を行うフィールドが少ない》が51.9%、《職員にスキルがない》が33.1%となっています。

特に《体験を行うフィールドが少ない》と回答した施設は、中心市街地で66.7%、郊外の住宅地で55.9%と高く、一方、農村部では、23.8%から47.7%と低く、施設の所在地との関係が見られます。

施設の所在と野外体験保育の課題

(%)



2 野外体験保育に積極的に取り組む施設向け現地調査（職員等へのヒアリング調査）

2-1 調査方法

「保育施設向け実態調査」結果や、関係者からの聴き取りをもとに、幼保の別、地域性などを勘案して選定し、現地調査並びに園長、職員に対するヒアリング調査を実施

2-2 調査結果の概要

2-2-1 施設の概要

	施設の所在	園児数	クラス数	職員数
森の風 ようちえん	田・畑が多い農業地帯	51	2	13
明野幼稚園	田・畑が多い農業地帯	62	3	9
片田保育園	郊外の住宅地	89	3	20

2-2-2 特徴的な活動

森の風 ようちえん	子どもにとって遊びは学習であり、仕事であり生活であるという考えのもと日常の活動を野外で過ごしている。自然の中で思い切り遊ぶ体験の積み重ねが体の感覚や忍耐力、集中力を養い、生きる力を身につけさせている。
明野幼稚園	隣接する県立明野高校との交流事業（農業体験・食育で年間20回程度実施）で、季節の野菜などの種まき（植え付け）から収穫までを体験させるとともに、食育も実施。自然の恵みを学び、動植物への探究心を養っている。
片田保育園	里山が園庭とつながっており、日常の活動（遊び）に利用されている。自然に囲まれ、四季を感じ、動植物と触れ合うことができる。危険を回避する力や周り（特に年下の子）を気遣う心を養っている。

2-2-3 野外体験保育に取り組むうえでの課題

森の風 ようちえん	認可外保育施設のための行政の助成や財政的支援がなく、施設の運営が厳しく、保護者への保育料の負担も大きい。
明野幼稚園	農業体験の時間は、安全管理面で教職員が多く必要で余裕のある職員が不足する。職員の自然観察等の能力向上も必要。
片田保育園	保育所は、保育内容を見て保護者が入園先を選択するのではなく、市の関与が大きいいため、自然体験の多さで服が汚れることを嫌がる保護者もいる。自然活動のフィールドを拡げたいが職員の負担も大きい。職員のスキル向上も必要。

※各施設の正式な名称は、第1章3-2（1）調査対象を参照（P2）

3 保護者向け意識調査

3-1 調査票回収結果

50 通（配布数 50 通：回収率 100%）

3-2 調査結果

3-2-1 施設の概要

①きょうだいの数（調査対象の子どもを含む）

117 人（1 世帯あたり 平均 2.34 人）

※全国平均 1 世帯あたり 平均 1.70 人

厚生労働省 国民生活基礎調査（平成 25 年）

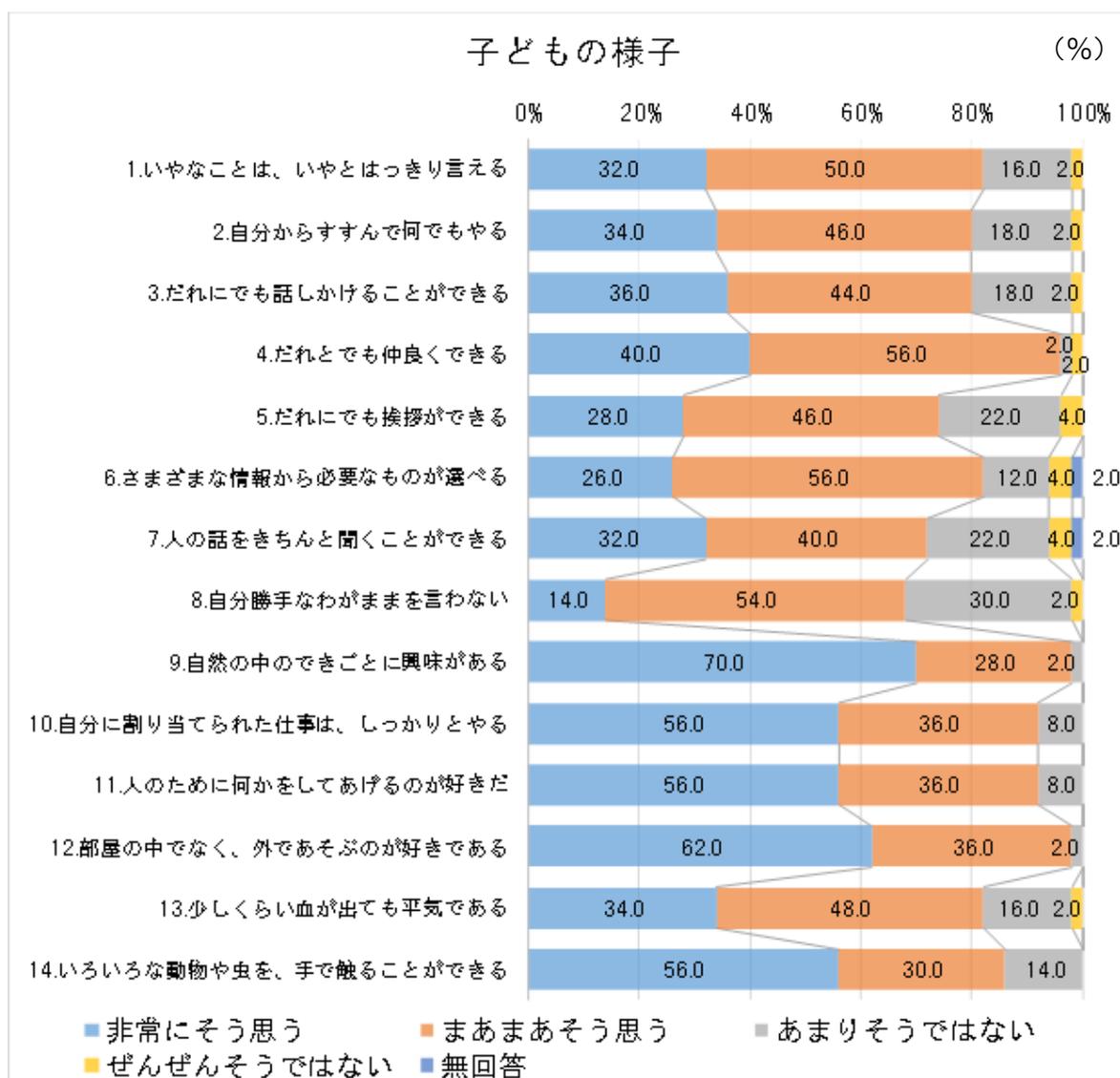
②家族構成

	回答数	比率(%)
母親	50	100.0
父親	48	96.0
姉	17	34.0
兄	20	40.0
妹	10	20.0
弟	12	24.0
祖母	7	14.0
祖父	8	16.0
その他	0	0.0

3-2-2 子どもの様子

○野外体験保育に積極的に取り組む保育施設の子どもたちは、保護者から見て、「自然の中のできごとに興味がある」「部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである」という様子が多く見られる。

野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者に、子どもの様子を質問したところ、《非常にそう思う》との回答が多かった項目は「自然の中のできごとに興味がある」が 70.0%、次いで「部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである」が 62.0%、「自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」「いろいろな動物や虫を、手で触ることができる」という項目がいずれも 56.0%となっています。



3-2-3 今の保育施設に通わせての子どもの変化

「今の保育施設に通わせて感じた子どもの変化」について自由記述で聞いたところ、以下の項目に関する回答が寄せられています。

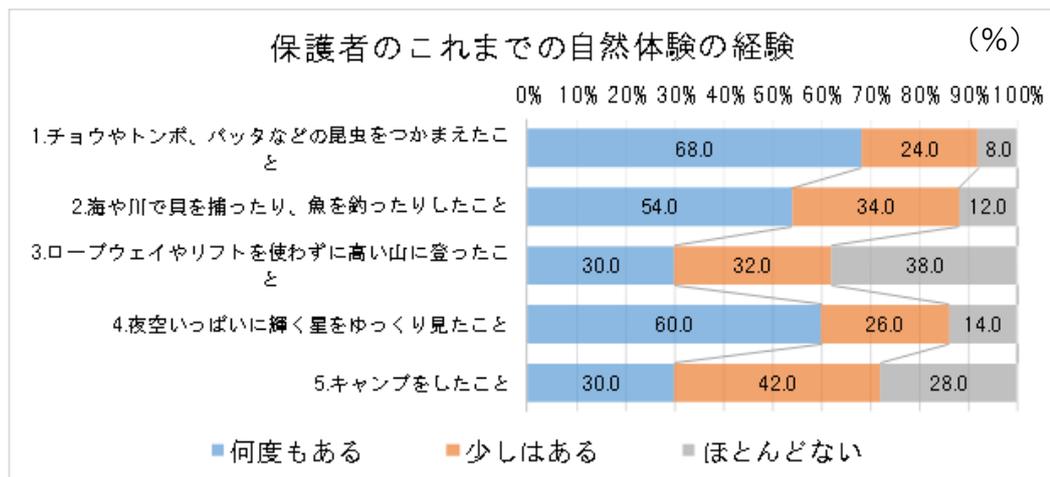
- ・ 自然への興味や関心が高くなったこと
- ・ 感受性が豊かになったこと
- ・ 周り（特に年下）への思いやりや協調性が育まれたこと
- ・ のびのび育っていること
- ・ 体力、運動能力が向上したこと
- ・ 生きる力がついてきたこと

3-2-4 保護者の思い

(1) 回答者（保護者）のこれまでの自然体験の経験

○野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者自身は、「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」「海や川で貝を捕ったり、魚を釣ったりしたこと」「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」が約9割。

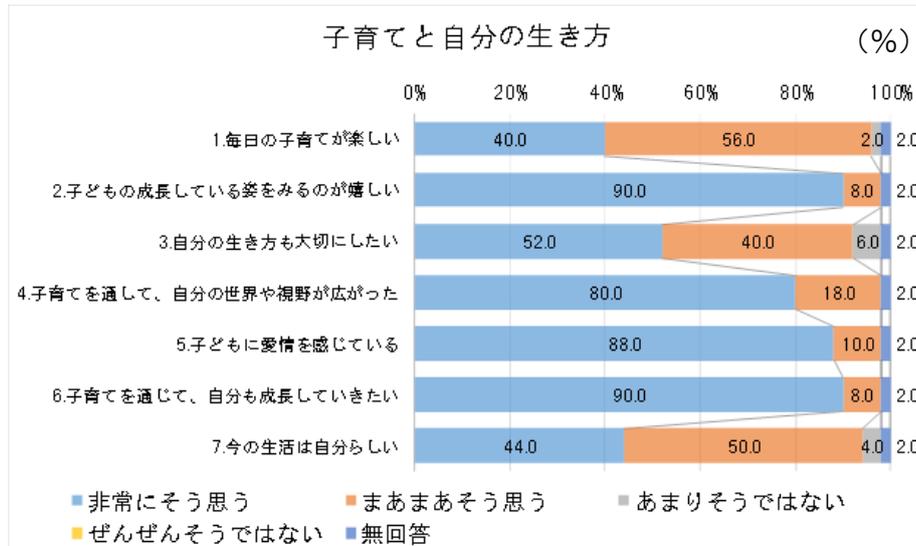
野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者に、自身のこれまでの自然体験の経験について質問したところ《何度もある》《少しはある》と回答した人が、「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」は92.0%、「海や川で貝を捕ったり、魚を釣ったりしたこと」が88.0%、「夜空いっぱいに輝く星をゆっくりみたこと」が86.0%となっています。



(2) 子育てと自分の生き方

○野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者は、今の子育てと自分の生き方に肯定的な感情を持っている。

子育てと自分の生き方の肯定的な感情について、7つの項目に対する思いを質問したところ、《非常にそう思う》及び《まあまあそう思う》と回答した人は、全ての項目で9割以上を占めており、ほとんどの人が、今の生活に対して肯定的な感情を持っていることが見られます。



(参考) 子育てと自分の生き方についての参考比較

○子育ての自分の生き方について、過去に兵庫県内の大学で実施された神戸市の一部の保育施設（公立保育所、公立幼稚園等）の保護者を対象とした意識調査の結果と比較すると、「毎日の子育てが楽しい」「子育てを通して、自分の世界や視野が広がった」「今の生活は自分らしい」の項目で、今回の保護者向け意識調査の数値が上回っている。

		《非常にそう思う》+《まあまあそう思う》 (%)		
		調査結果 (A)	参考文献* (B)	差 (A-B)
1	毎日の子育てが楽しい	96.0	89.7	6.3
2	子どもの成長している姿をみるのが嬉しい	98.0	99.2	-1.2
3	自分の生き方も大切にしたい	92.0	94.3	-2.3
4	子育てを通して、自分の世界や視野が広がった	98.0	92.3	5.7
5	子どもに愛情を感じている	98.0	99.1	-1.1
6	子育てを通じて、自分も成長していきたい	98.0	97.8	0.2
7	今の生活は自分らしい	94.0	79.3	14.7

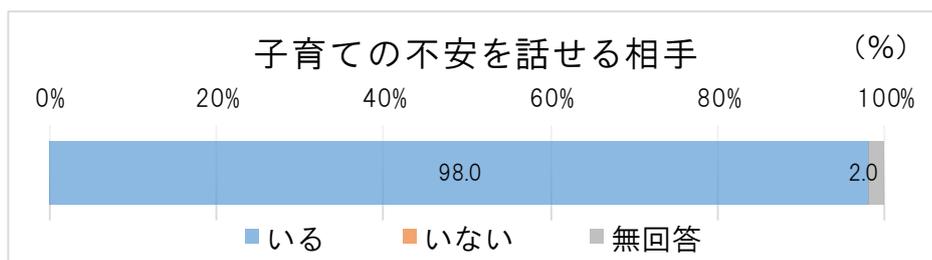
*甲南大学人間科学研究所 第2期子育て研究会
「[第2回]子育て環境と子どもに対する意識調査」報告書

(3) 子育てについての不安を話せる相手

○野外体験保育に積極的に取り組む施設に子どもを通わせる保護者は、
 全ての人が「子育てについての不安を話せる相手がいる」と回答

子育てについての不安を話せる相手の有無について質問したところ、無回答の1名を除き、全ての回答者が《いる》と答えています。

その相手については、「子育てを通じて知り合った友人」が88.0%でもっとも多く見られます。



子育てについての不安を話せる相手

	回答数	比率 (%)
配偶者	41	82.0
自分の両親	38	76.0
配偶者の両親	19	38.0
自分又は配偶者のきょうだい	19	38.0
子育てを通じて知り合った友人	44	88.0
子育て以外で知り合った友人	18	36.0
保育施設の先生	34	68.0
医師・保健師などの専門家	12	24.0
その他	2	4.0
無回答	2	4.0

第3章 野外体験保育の普及について

1 調査結果から見えること（主なもの）

（1）野外体験保育の有効性に関するもの

①野外体験保育の実施頻度と、子どもたちの様子との関係について

野外体験保育の実施頻度が高い保育施設ほど、多くの園児に「自分からすすんで何でもやる」「さまざまな情報から必要なものを選べる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」などの様子が見られる施設の割合が高い。

②保育施設に子どもを通わせる保護者の思いについて

野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者は、今の子育てと自分の生き方に肯定的な感情を持っている。

（「子どもの成長している姿を見るのが嬉しい」「子育てを通じて、自分も成長していきたい」などの項目に、そう思うと答えた人の割合が9割以上）

（2）野外体験保育に関するニーズや課題に関するもの

①野外体験保育のニーズについて

県内の48%の保育施設がもっと野外体験保育に取り組む必要があると感じている。特に、野外体験保育の実施頻度が低い施設ほど、多くの施設がその必要性を感じている。※実施頻度が最も低いグループに属する施設を除く

②野外体験保育の課題について

野外体験保育を進める上での課題は「安全性の確保が困難」が最も高く、次いで「職員の負担が大きい」「体験を行うフィールドが少ない」「職員にスキルがない」と続く。特に中心市街地や郊外の住宅地では「体験を行うフィールドが少ない」を課題にあげる施設が多い。

また、野外体験保育に積極的に取り組む施設では、運営にかかる負担や保護者の理解が課題としてあげられている。

③保護者・地域との関わりと、野外体験保育の実施頻度の関係について

野外体験保育の実施頻度が高い施設ほど、地域の人々の保育への参加回数が多い。

2 野外体験保育の普及方策

今回の調査結果から、野外体験保育を進める上での主な課題として、「安全性の確保が困難」、「職員の負担が大きい」「体験を行うフィールドが少ない」「職員にスキルがない」などがあげられました。

このため、「野外体験保育有効性調査・検討委員会」での委員の意見をふまえて野外体験保育の普及方策をとりまとめました。

まず第一に、野外体験保育に積極的に取り組む保育施設においては、「子どもを一人の人として尊重する」、「生きる力を培う学び」、「生きる力を自分で考える」ことなどを保育のポリシーとしながら、野外体験を単なる野外での体験にとらえず、自然を豊かに活用して、子どもの「生き抜いていく力」を育む子育てを意識しながら取り組まれています。

こうした考え方をもとに、保育関係者だけでなく、行政、保護者、地域の人々、保育施設、保育者が互いに理解し、連携して、以下の各課題に対して取り組んで行くことが重要と考えます。

(1) 安全性の確保について

安全性の確保は、野外体験保育を進める上で最も優先される事項であり、保護者の理解を得るためにも、施設においても十分な対策を図ることが必要です。

このため、野外体験に取り組もうとする施設やその職員に対し、実際に野外体験保育に取り組んでいる施設の安全管理の取組や、職員の対応・心がけなどを学ぶ機会を提供することが重要と考えます。

(2) 職員の負担軽減について

保育施設の職員は、各施設で必要とされる保育・教育活動を分担して取り組んでいる現状があり、新たに野外体験保育に取り組むことは、個々の職員の負担増にもつながることから、野外体験保育の導入には、施設の活動計画の見直しや、施設外の人材の協力を得ることも含めた検討が必要です。

このため、施設における活動計画の見直し等を行う際の参考となるよう、野外体験保育の先進事例や取組内容などの情報や、実際に野外体験保育に積極的に取り組んでいる施設がどのような活動計画で保護者や地域の皆さんの協力を得て

保育を行っているかを学ぶことができる機会を、県内の保育施設や市町の担当者等に提供することが重要と考えます。

(3) 体験を行うフィールドのなさ（少なさ）について

中心市街地や住宅地では、施設に近接した自然環境（フィールド）が少なく、野外体験を進める上での物理的な障害となっている状況が見られます。

このため、施設の近くに野山や田畑がない施設であっても、それぞれの施設の状況に応じて野外体験保育が実施できるよう、県内各地に存在する野外体験ができるフィールドの情報や、施設の園庭において実施可能な野外体験保育の方法などについて広く情報提供を行うことが重要と考えます。

(4) 職員のスキルの向上について

野外体験保育の導入や、取組の充実を図るには、職員が必要とされるスキルや知識を身につけ、モチベーションを高く持って取り組むことが大切です。

このため、野外体験保育に取り組む施設に対し、専門的知識や経験を持った人材を派遣し、その施設の状況に応じた人材育成を行ったり、野外体験保育を実施している施設の協力を得ながら、野外体験保育を通じた子どもの変化や保育の実施方法、安全管理などの知識や情報を得るための学習・交流の機会を提供したりすることなどが重要と考えます。

また、ホームページ等により、野外体験保育の効果及び実際の取組事例や保育を進める上でのノウハウ等を情報提供することで、野外体験保育に興味を持った方が、当保育に対する理解や機運を高められるようにすることも重要と考えます。

(5) 保護者・地域との関わりのつくり方について

野外体験保育を実施するためには、保護者による当保育の有効性や必要性等に関する理解はもちろん、フィールドの確保や活動の支援につながる地域の人々の協力が必要です。

このため、保護者、地域の人々や地元の市町等が、地域における野外体験保育の実施に理解・協力する機運が高まるよう、野外体験保育の取組内容やその有効性や必要性等について広く啓発を図っていくことが重要と考えます。

啓発を行う際には、単に野外体験保育の有効性を定性的な文書で伝えるだけでなく、例えば、保護者向けには実際に子どもたちと自然を体験していただく

機会を設けるほか、地域の人々や市町の担当者を対象とし、野外体験保育が地域コミュニティの再生につながる事例を紹介するなど、各分野の方々が、自身に関連することとして野外体験保育の有効性や必要性等を理解いただけるよう、啓発を行うことが重要と考えます。

(6) 共通・その他について

野外体験保育を進めるうえでの課題は、各保育施設の状況に応じてさまざまです。野外体験保育を県内に広く普及していくためには、できる限り、それぞれの施設の実状に合った支援を心がけることが重要と考えます。

野外体験保育を進めるための資金的な課題については、人材育成支援などにより、施設の負担軽減を図るとともに、現状の保育・教育施設に対する資金的助成の状況も踏まえ、県や市町が、それぞれの役割に応じた支援の検討を行うとともに、国に対して野外体験保育にかかる施設運営の現状を伝え、支援の働きかけを行うことが重要と考えます。

第4章 野外体験保育有効性調査・検討委員会について

「野外体験保育」の有効性の検証及び普及方策に関する検討を行うにあたり、専門的見地からご意見をいただくため、学識経験者や保育・幼児教育関係者等で構成する「野外体験保育有効性調査・検討委員会」を設置し、委員の皆さんには、それぞれの立場から貴重なご意見をいただきました。

1 委員

※五十音順・敬称略

所属	委員名	備考
特定非営利活動法人 大杉谷自然学校	池田 直代	
大阪大谷大学 教育学部 教授	井上 美智子	
社会福祉法人一二三会 いずみ保育園 園長	宇佐美 直樹	三重県保育協議会 副会長
岐阜聖徳学園大学短期大学部 幼児教育学科 専任講師	木戸 啓絵	
学校法人ひかり学園 白子ひかり幼稚園 理事長	服部 高明	一般社団法人 三重県私 立幼稚園協会 副会長

2 開催状況

	実施日時	主な内容	備考
第1回	平成27年 9月8日	1 野外体験保育有効性調査について 2 実態調査について 3 野外体験保育の普及方策について	
第2回	平成27年 10月23日	1 野外体験保育実態調査の概要について 2 野外体験保育の普及方策（案）について	現地 調査 実施
第3回	平成28年 1月29日	1 野外体験保育有効性調査の結果について 2 野外体験保育の普及方策について	

野外体験保育有効性調査 報告書

発行 三重県
発行年月 2016年(平成28年)3月
編集 三重県健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課
〒514-8570
三重県津市広明町13番地
電話 059-224-2304
Fax 059-224-2279
Eメール shoshika@pref.mie.jp